

わが

試練、そして感謝とともに 新たな「挑戦」へ

はじめに

平成23年3月11日、当地方を襲った東日本大震災は未曾有の規模となり、気仙沼市は甚大な被害を受け、美しい郷土は一瞬にして姿を変えてしまいました。

あの震災より5年半。世界中から数えきれないほどの温かいご支



「地域から学ぶ」がコンセプトのまちづくりセミナー「ぬま塾」

援をいただきながら、一歩ずつではありますが確実に再生に向けた歩みを進めています。

私たちは、これまでのご支援に対する感謝を忘れず、震災の悲しみを乗り越えて、先人から大切に受け継いだ自慢の郷土の復興を成し遂げるとともに、新しいまちづくりをしていかなければなりません。

創造的復興「地域の社会課題の解決なくして、真の復興無し」

―住宅再建―

防災集団移転促進事業は、全38区(910区画)で造成工事に着手し、平成25年度から順次移転者へ引き渡し、平成28年度に98・4%、平成30年3月にすべてが完了する予定です。

また、災害公営住宅整備事業

は、全28地区(約2200戸)の計画で整備を進め、平成26年度の南郷地区を皮切りに順次入居が開始され、平成29年5月にすべてが入居可能となります。

―産業再生―

基幹産業である水産業の核となる魚市場は、北日本最高位の水揚げを目標に掲げ、閉鎖型荷捌所や低温売場などによる高度衛生管理施設として再整備します。水揚げ見学が可能なスペースやキッチンスタジオを設置し、観光と水産の融合を具現化していきます。

また、震災を教訓とし、津波に対応した安全な水産加工団地を整備するとともに、関連産業である造船施設の集約・高度化と安全な漁業燃油施設の整備を進めるなど気仙沼港の強みである水産クラスターのさらなる進化を目指します。

―観光振興―

魚市場を中心とした港資源と食ブランドに加え、震災の遺構と伝承などを、気仙沼ならではの「オンラインワンコンテンツ」として活用した誘客や、水産業と観光産業の連携・融合による、新たな付加価値創造を中核的戦略とし、観光客人込数や宿泊者数の増加を目指します。

また、地域経営の観点から稼げる観光地を目指すため、観光に係るステークホルダーだけでなく市民も巻き込んだDMOの体制を確立します。

**まち・ひと・しごと
「地方創生」への挑戦**

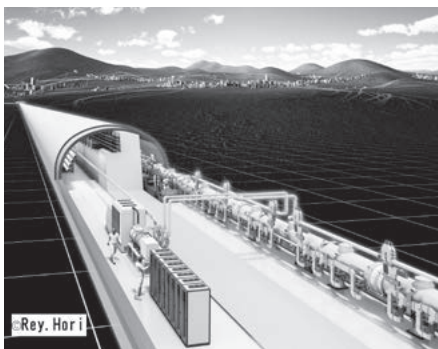
本市では、2040年(平成52年)までの人口の将来展望と目指すべき将来の方向性として、目標人口を5万3500人と位置付けるとともに、人口減少への対応と併せ、地方における暮らしの質や満足度を高めることを基本とし、「自然と共生した生活」「都会の真

似はしない」、しかしながら「産業は国際的に」を掲げ、『地方にある世界の港町』を目指すこととしています。

多様なリーダーが集い、共に議論できる場を。そして、まち全体を「大学」へ

日本有数の漁港を擁し、水産業で栄えたまち「気仙沼」。国民の魚食離れや漁業の衰退などで、次第に活力を失いつつあったまちを再生するにはどうしたらよいか——。ごく少数のリーダーによるまちづくりが成功を導くことのできる数千人規模のまちと違い、本市のサイズで創生を果たすためには、多くのリーダーが必要です。

大震災以降、市内には避難所な



地下トンネル内に建設される国際リニアコライダー(ILC)イメージ図

どで活躍した若いリーダーが次々に生まれ、移住者や支援者との協働で新たな取り組みが進められています。この機会をとらえ、人口減少の中で、地方ならではの価値観や豊かさを追求するため、このまちを牽引するリーダーの養成を推進するとともに、主体的にまちづくりを挑む人々の相互往来の場を作り「人から始まる地方創生」に取り組みます。

震災以降に開始した経営者の育成や若者・女性・シニアの人材育成を進め、このまち全体を大学ととらえ、「気仙沼を元気にしたい！」と考える人たちが出会い、語り、協働し、新しいまちづくりの仕組みや産業を生み出す「基地」となるような場をつくりまします。その相互往来中に市のビジョンも反映させながら、行政と民間が協働した市民が主役のまちづくりを目指します。

とっておきの話 国際リニアコライダー

国際リニアコライダー(ILC)は、物質の根源や宇宙の起源に関する研究をするため、地下約100m、長さ31~50kmのトンネ

ル内に建設される最先端の素粒子実験施設です。この施設が建設された場合、国内外の研究者や技術者、企業が集まり知的産業を中核とした国際都市がつけられ、建設から30年間の経済効果は4兆3000億円とも言われています。

国内建設候補地としては、岩手県と宮城県にまたがる北上山地(北上高地)が最適とされており、

プロフィール

- ◆面積 332・44km²
- ◆人口 6万6055人
- ◆世帯数 2万6337世帯

〔将来都市像〕地方にある世界の港町

〔まちの特徴〕気仙沼港は全国有数の遠洋・沖合漁船の船籍港で、市産業の8割を水産とその関連産業が占める

〔市町村合併〕平成18年3月31日、旧気仙沼市と旧唐桑町が対等合併。平成21年9月1日、旧本吉町を編入

〔特産品〕カツオ、メカジキ、サンマ、サメ、ワカメ、ホヤ、カキ、ホタテな



気仙沼市長
菅原 茂



どの魚介藻類およびワカヒレ、イカの塩辛などの水産加工品

〔観光〕岩井崎潮吹岩、十八鳴浜・九九鳴き浜、亀山眺望、巨釜半造、徳仙丈山、モーランド本吉、安波山、リアス・アーケ美術館、気仙沼「海の市」シャークミュージアム

〔イベント〕気仙沼みなとまつり、徳仙丈つじまつり、気仙沼市産業まつり、唐桑こつおフェア

地下トンネルが50kmまで延びると、奥州市・一関市を通り本市が施設の南端となる見込みです。本市では、平成25年12月に気仙沼市国際リニアコライダー推進協議会を設立し、東北ILC推進協議会をはじめとする関係団体と一体となって、日本への誘致活動に取り組んでおり、政府の英断に期待しています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人・まち・自然が共生する未来創造都市 甲府 〜選ばれる都市を目指して〜

はじめに

甲府市は、甲府盆地の中央に位置し、南に世界文化遺産である富士山、北に八ヶ岳、西に南アルプス連峰を望み、また、平成百景にも選ばれた「御岳昇仙峡」や「甲府盆地の夜景」など、豊かな自然に恵まれた美しいまちです。

主な産業としては、宝石加工が盛んで、出荷額が全国一となっております。また、経済産業省で伝統的工芸品に指定されている甲州水晶貴石細工や甲州印伝のほか、日本初のワイン醸造の地です。

日照時間の長さや豊富な水資源などの自然が育んだ野菜や果物も多種生産されており、「ほうとう」や「甲府烏もつ煮」をはじめとする郷土料理も豊富です。

本年度で市制施行127周年を迎

え、武田信玄公が活躍した戦国時代の勇壮な歴史などを現在に受け継いだまちとして、また、山梨県の政治・経済・文化の中心地として発展してきました。

開府500年と 中核市移行で新たな 時代の幕開け！

甲斐の国の府中として発展してきた甲府は、平成31年（2019年）には、信玄公の父、信虎公が甲府に館を築いてから500年の節目の年を迎えます。

郷土の英雄、信玄公は城づくりより人づくりを重んじたといわれています。現代のまちづくりの基本も人づくりにあると私は考えます。その意味で、本市が有する歴史、文化、産業、自然といった資源を市民の皆さまに知っていただ

き、郷土への愛着や誇りの醸成につなげるとともに、「過去に学ぶ」「現在（いま）を見つめる」「未来につなぐ」の考えの下、「こうふ開府500年記念事業」を推進し、「歴史物語都市こうふ」の新たな歴史を築いていきたいと思えます。

また、分権時代をリードする自治体としてふさわしい権限と責任を持ち、市民生活の質を向上させていくとともに、本市の発展に、さらには県都として拠点性が強化されることで、圏域全体の発展も見込まれることから、開府500年を迎える平成31年の中核市移行を目指します。

甲府の500年にも及ぶ軌跡は、先人たちがたゆまぬ努力によって積み重ねてきた、数々の歴史に彩られています。その歴史と伝統を受け継ぎ、次世代へと引き

つなげるとともに、「過去に学ぶ」「現在（いま）を見つめる」「未来につなぐ」の考えの下、「こうふ開府500年記念事業」を推進し、「歴史物語都市こうふ」の新たな歴史を築いていきたいと思えます。

継いでいくことが私たちの責務であります。このようなことを念頭に、わがまち甲府を誇りに思い、愛着を持ちながら暮らしていける魅力ある都市となるよう、「中核市甲府」の実現に向けて取り組んでいきます。

リニアの開通で 飛躍的な発展を

リニア中央新幹線は、東京・大阪間を、独自の技術である超電導リニアによって結ぶ新たな新幹線であり、東京・名古屋間については平成39年の先行開業が予定されています。

これにより、沿線都市と本市との時間距離が大幅に短縮され、品川まで約25分、名古屋まで約40分でのアクセスが可能となり、首都圏・中京圏への利便性が高まるとともに、地域間交流の拡大を通して、産業・経済・文化・観光など、多様な分野において、飛躍的な発展をもたらすものと期待をしています。

リニア開業効果を最大限に生か

し、市域全体に波及させるとい
 視点に立って、「国際交流都市甲
 府」の実現や定住人口の増加、新
 たな企業の誘致などに取り組んで
 いきます。

シティプロモーションの 戦略的展開

本市が持つ多様な資源を掘り起
 こすため、甲府ブランド認定制度
 を制定し、個性を生かした特産品
 などの優れた商品に「甲府之証」認
 証マークを付与し、販路拡大など
 の積極的な支援を行っています。

また、観光プロモーションを海
 外で初めてとなるインドネシアに



市長による海外トップセールス（インドネシア）

において実施し、インバウンドの獲
 得にも力を入れ、積極的な情報発
 信を行う中で、本市の認知度の向
 上に努めました。

今後は、本市の持つポテンシヤ
 ルを最大限に生かした新たな視点
 に立って、「人口減少問題の克服
 と地域の持続的な発展」を目標に、
 本市が選ばれる都市となるよう、
 シティプロモーションを戦略的か
 つ全市的に進めていきます。

結びに

平成28年度は、今後10年間の市
 政運営の指針となる、「第六次甲府
 市総合計画」の初年度として、その
 第一歩を着実に踏み出しました。

さらに、本市の輝かしい未来に
 向かって私の強い想いと願いを込
 めた「こうふ未来創り重点戦略プ
 ロジェクト」に位置付けた、「子ど
 も最優先のまちを創る」をはじめ、
 6つの創る力を柱とする諸施策を
 推進するとともに、本市が今後も
 県内において中核的な役割を担い
 ながら、市民福祉のさらなる向上
 を期す観点から、現プロジェクト
 に掲げた基本政策を補強し、その
 着実な推進を図る新たな先導的な
 施策を中心に、基本的な方向性を

示した「こうふ未来創り重点戦略
 プロジェクト・プラス」における
 基本戦略を取りまとめました。
 ここに記した「創る」という文
 字に込めた想い、すなわち今ある
 ものの必要性を十分に検討し、本
 市の未来につながる新たなものを
 市民の皆さまとともに創っていく
 ことを強く胸に秘め、「笑顔あふれ
 るまち創り」を実現していきます。

私の座右の銘としている言葉「一
 雨千山を潤す」は、ひと降りの雨
 が広大な山々を潤すように、ひと
 つの教え（行動）が多くの人々に恵
 みを与える様子を表す言葉です。
 行政課題や、多様化する市民ニー
 ズに対応するため、職員一人一人
 が「今、自分に何ができるのか」を
 自発的に考え、行動する市役所を
 創っていききたいと思えます。

プロフィール

- ◆ 面積 212.47km²
- ◆ 人口 19万1811人
- ◆ 世帯数 9万162世帯

〔将来都市像〕人・まち・自然が共生
 する未来創造都市 甲府

〔まちの特徴〕甲府盆地の中央を南北
 に縦断し、豊かな自然に恵まれ、3年
 後の平成31年には開府500年を迎え
 る歴史と伝統があるまち

〔市町村合併〕平成18年3月1日、中
 道町・上九一色村北部（梯・古閑区域）
 を編入合併



甲府市長
 樋口雄一



〔特産品〕宝飾品、甲州印伝、煮貝、
 ほうとう、御岳そば、ワイン、ぶどう、
 梨、甲府鳥もつ煮

〔観光〕武田神社、甲府城跡、甲斐善
 光寺、御岳昇仙峡、温泉（湯村・積翠
 寺他）、かいてらす、ワイナリー

〔イベント〕信玄公祭り、小江戸甲府
 の夏祭り、甲府大好きまつり、黒平ほ
 うとう祭り、甲府市農林業祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、
 人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人口減少時代における高山市の挑戦

日本一広大な市

高山市は、岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、東の槍ヶ岳、乗鞍岳などの飛騨山脈、西の白山連峰などの山々に囲まれ、四季の変化に富んだ豊かな自然を有するまちです。



春の高山祭

平成17年に周辺9町村と合併し、面積が東京都とほぼ同じの日本一広い市となり、奥飛騨温泉郷をはじめとする温泉や雄大な山岳景観などの自然資源に加え、日本遺産に認定された飛騨の匠の技が

生きる絢爛豪華な屋台で有名な高山祭、古い町並などの伝統文化といった魅力が溢れています。

本市の人口に目を向けると、平成12年をピークに以降減少に転じ、約30年後の平成57年には約6万5000人となり、平成22年の9万2274人と比較し、約3割の人口が減少する見込みです。

人口減少は避けられないものとして受け止めながら、人口減少の中にあっても地域を活性化させ、地域に住む住民自身が住みやすいまちを考える仕組みづくりに取り組んできました。

ここでは、主に次の3つの取り組みについてご紹介させていただきます。

海外戦略

ここ数年、市内では外国の方が

散策している姿を大変よく見掛けられるようになりました。平成27年の

外国人観光客入込者数は36万人となり、市の人口の4倍に当たる外国の方が高山を訪れています。

この背景には、長く30年にも及ぶ国際観光都市としての下地作りが大きく関係しています。昭和61年3月に国際観光モデル地区の指定を受け、同年4月に国際観光都市宣言を行いました。以来、案内表示看板やパンフレットなどの多言語化に加え、観光関連施設の方を対象とした「おもてなし研修会」の開催など、「外国人が安心して一人歩きできるまちづくり」に官民が一体となって取り組んできました。

平成24年度には『海外戦略ビジョン』を策定し、海外誘客、地場産品の海外販路開拓、国際交流など海外とのつながりを深め、活

気と誇りに満ちた国際都市を目指し取り組んできました。

私自身、世界中を飛び回り、トップが行かなければ開くことができない扉を開けようとトップセールスを行っています。

また、現在は日本政府観光局の本部および香港とパリの事務所、日本貿易振興機構の本部、姉妹都市である米国デンバーの日本総領事館に海外戦略の一環として職員を派遣し、情報収集、関係事業者や機関に対して営業活動を行っています。

こうした取り組みの結果、ミ



古い町並を散策する外国人観光客

シユランガイドブックにおいて、一度は訪れるべき観光地として最高評価の三つ星をいただくことができました。

ブランド戦略

「伝統」「癒し」「人情」「匠」で表現される本市の魅力と価値を磨き上げ、発信していくため、平成27年度に『飛騨高山ブランド戦略』を策定しました。

戦略では、インナーブランディング(ブランドコンセプトの共有)とアウトナーブランディング(飛騨高山ブランドの発信)を取り組みの方向性に位置付け、交流人口や定住人口の増加、地場産品などの流通拡大をはじめ、地域の活性化につながる施策に取り組んでいくこととしています。

今後は、市内の有識者や市外の有識者である経済観光アドバイザーから意見をお聞きしながら、飛騨高山ブランドの認証をはじめとした各種施策を実施し、戦略の着実な推進を図ることとしています。

協働のまちづくり

地域の課題が多様化する中、住民自らによる持続可能なまちづく

りに向け、本市では『協働のまちづくり』(「市民、地域住民組織、事業者、行政などの地域社会を構成する多様な主体が、お互いの存在意義を認識し、尊重し合い、お互いの持てる能力を発揮し、ともに手を携え、まちづくり(地域課題の解決)に取り組む」と定義)に取り組んでいます。

平成27年度から市内全域(おおむね小学校区の20地区)において、協働のまちづくりを担う組織「まちづくり協議会」が設立され、住民による主体的な取り組みが始まっています。

行政としても、協議会への財政的な支援(協働のまちづくり支援金創設、総額2億5000万円を各地区に交付)、人的なかかわり(まちづくり担当職員として市職員を各地区2名ずつ任命)、事務所の提供(公共施設を事務所として無償提供)などを通して、ともにまちづくりを進めています。

この取り組みは、市の権限、予算、人材、施設などを地域の主体性に委ねて地域づくりを促進しようとするもので、新たな地方自治の在り方を探る試みであると考えています。

おわりに

全国各地において地方創生の名の下、地域の特徴を生かした取り組みが進められています。広大な市域を有する本市は、合併前の旧高山市が首都圏で、周辺町村が地方都市という、まさに日本の縮図のような状況にあります。

本年は市制施行80周年を迎える記念の年として、100年先の未

来まで、住む人にも訪れる人にも笑顔が溢れ、光り輝ける高山を築く契機の年となるよう、海外戦略、ブランド戦略、協働のまちづくりを進めています。

日本の縮図である本市から、高山モデルの取り組みを発信しながら、将来にわたって活力ある地域を維持し、住みたい・住み続けたいと思えるまちづくりに挑戦していきます。

プロフィール

- ◆ 面積 2177.61km²
- ◆ 人口 9万77人
- ◆ 世帯数 3万5312世帯

〔将来都市像〕人・自然・文化がおりなす 活力とやさしさのあるまち飛騨高山

〔まちの特徴〕飛騨の匠の技が生きる祭屋台、豊かな自然に囲まれた温泉など多くの魅力に溢れる日本一広い市

〔市町村合併〕平成17年2月1日 旧高山市と周辺9町村が合併



高山市長
國島芳明



〔特産品〕飛騨牛、地酒、飛騨の野菜・米、飛騨の家具、飛騨春慶、一位一刀彫、さるぼぼ

〔観光〕古い町並、奥飛騨温泉郷、臥龍桜、莊川桜、乗鞍スカイライン、新穂高ロープウェイ

〔イベント〕春と秋の高山祭、飛騨高山ウルトラマラソン、飛騨高山手筒花火、冬の酒蔵めぐり、飛騨高山文化芸術祭こたまくれ

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

SQのあるまち 鳥取市

はじめに

鳥取市は、鳥取県東部に位置する城下町であり、平成16年11月に近隣8町村との合併により、山陰地方初の20万都市となりました。鳥取県の県都として、山陰東部圏の政治、経済、文化の中心的役割を担っています。



鳥取砂丘 砂の美術館 南米編

近年は、鳥取自動車道の全線開通や山陰自動車道の整備など高速交通ネットワークも充実し、山陰海岸ジオパークがユネスコ世界ジオパークに認定されたほか、鳥取砂丘や世界で唯一砂の彫刻を常設展示する「鳥取砂丘 砂の美術館」など観光振興にも力を入れています。

「らしさ」を生かした 地方創生

本市は、豊かな自然、子育てのしやすさ、移住者支援制度の充実など、鳥取らしさを生かしたまちづくりを進めています。

例えば、平成18年9月に「定住促進・Uターン相談支援窓口」を開設するなど、ほかに先駆けて人口減少対策に取り組み、以来、移住者は2000人を超えています。

平成27年9月に策定した「鳥取市創生総合戦略」では、ひとづくりを第一に掲げ、人間性豊かで思いやりがあり、郷土を大切にすることの育成に学校・家庭・地域が一体となつて取り組んでいます。

また、企業進出も進み、働く場の創出や正規雇用が拡大されています。若い世代が望む経済的な安

定や、安心して子どもを産み育てられる環境整備につながっています。さらに、待機児童ゼロの継続、保育料の軽減、小児特別医療費助成の拡大などきめ細かな子育て支援を行い、「らしさ」を生かしたまちづくりを進めています。

「すごい！鳥取市」は、 「SQのあるまち」

本市では、地域間競争が激化するを見据え、関西圏と首都圏に向けて、さまざまな戦略的広報を展開し、シティセールスを推進してきました。

平成25年には、シティセールスの専門職員を配置し、「すごい！鳥取市」をキャッチコピーとする全国キャンペーンを展開しました。SNSによる情報発信はもとより、「すごウサギ」によるイメージ

戦略、鳥取のすごいところを集めたウェブサイトの開設や「100すごブック」の発刊、本市を体験する「ワーホリ」などを行い、本市の魅力を発信しています。

また、本市のブランドスローガンを「SQのあるまち」といたしました。SQとは、「砂丘」が連想されますが、Service Quality、Safety Quality、Sightseeing Qualityであり、またStaff（職員）Qualityでもあります。住む人、来る人の満足度の高いSuper Qualityなまちを目指す取り組みとして、その実現に向けて市の総力を挙げて取り組むこととしております。



移住者支援の拠点「鳥取市移住・交流情報ガーデン」

中核市移行を目指して

本市と山陰東部圏域の拠点性を高め、社会基盤の整備や都市機能の充実、市民サービスの向上、産業の振興を図り、住んでよかった、いつまでも暮らしたい鳥取市を目指して、平成30年4月1日に「中核市」移行を目指しています。中核市移行により設置する保健所を、保健センターや子育て支援機能と併せて施設整備を行い、健康づくりや子育ての総合的な相談に対応する「健康づくりと子育て支援の総合拠点」としていく計画です。

新たな広域連携の形成

鳥取県東部と兵庫県北但西部は、古くから文化や生活などにお



鳥取砂丘の風紋と麒麟獅子

ける交流が続いており、近年は山陰近畿自動車道の整備により、経済圏としてのかかわりもより深くなっています。既に、平成21年度から、定住自立圏構想を推進し、圏域における広域的な取り組みを行っていますが、平成30年4月に予定している本市の中核市移行を受け、鳥取県東部と兵庫県北但西部の1市6町で連携中核都市圏形成の協議を進めています。全国でもこの圏域だけに「麒麟獅子舞」が伝承していることから、「麒麟のまち」と銘打ち、本年4月には連携中核都市圏形成に向けた勉強会を立ち上げました。国の制度を活用して、連携事業や先進地における取り組みの研究を進めているところです。

連携中核都市圏の形成により地域の実情に応じた柔軟な連携が可能となるとともに、圏域全体の経済成長の牽引、都市機能の集積、また生活関連機能サービスの向上に、これまで以上の役割を果たすことができると思っています。

おわりに

本市のみならず、多くの自治体においては、出生率の低下や若者

の転出超過などにより人口減少や少子高齢化の進展という大きな課題に直面しています。移住定住の促進や観光振興、雇用・就業環境の確保、まちのにぎわいづくりなど多くの分野で課題が山積しています。これらの課題解決には、本市における取り組みのみならず、生活圏や経済圏を共有とする自治体が

プロフィール

- ◆ 面積 765.31km²
- ◆ 人口 19万1074人
- ◆ 世帯数 7万9149世帯

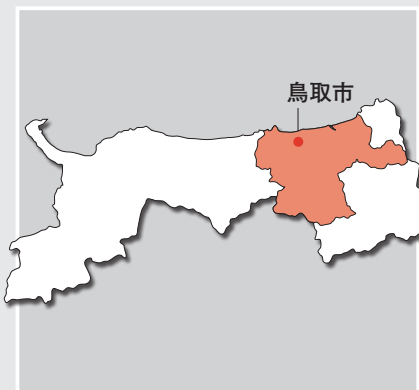
〔将来都市像〕いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、自信と誇り、夢と希望に満ちた鳥取市

〔まちの特徴〕日本一の鳥取大砂丘を有し、千代川流域に開けた山陰地方東部の中核都市

〔市町村合併〕平成16年11月1日国府町、福部村、河原町、用瀬町、佐治村、気高町、鹿野町、青谷町を編入合併



鳥取市長
深澤義彦



〔特産品〕二十世紀梨、砂丘らっきょう、豆腐ちくわ、松葉ガニ、白イカ、岩がき、モサエビ

〔観光〕鳥取砂丘砂の美術館、仁風閣、白兎海岸、さじアストロパーク、鹿野城跡、青谷上寺地遺跡

〔イベント〕鳥取しゃんしゃん祭、鳥取三十二万石お城まつり、あゆ祭、貝がら節祭り、流し雛、わったいな祭

役割分担を行い、連携して地方創生に取り組むことが必要です。本市では、中核市に移行するとともに、各町の理解と協力を得ながら、連携中核都市圏「麒麟のまち」の形成に努め、「いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市」の実現に向け邁進してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。